

お出かけ前の点検

CORONA *MARK II 1900* HARDTOP GSS

あなたのコロナ・MARK II 1900 ハードトップ GSS をいつも快適にご使用していただくために、お出かけ前に次の事柄を点検してください。



■仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を一回りすれば気軽に容易に点検ができます。

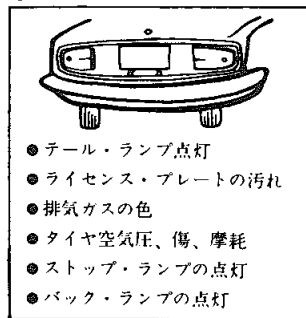
点検はムダを省き手順よく行うのがコツ
①→②→③の順に行ってください。

1. まずエンジン・フード
オイルと水の点検……………①
2. 次に運転席に座ってエンジン始動
各計器類を点検し、ウォーム・アップさせながらハンドル、ブレーキなどを点検……………②
3. ヘッド・ランプをつけ、車を出て周囲を一回りする間にタイヤ、ランプ類、オイル漏れなどを点検……………③
4. 再び運転席に乗り出発前に除行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………④

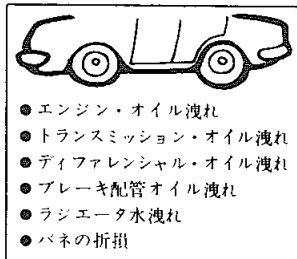
項 目		点 検 内 容
異状箇所		前回の悪かった所はないか。
車のかたむき		前・後輪のスプリングに損傷はないか。
タイヤ		空気圧は適当か。異常摩耗(残り溝1.6mm), 損傷はないか。
エンジン		エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。
ラジエーター		冷却水は規定量はいつているか。
バッテリー		バッテリー液は規定量はいつているか。
ブレーキ	ペダル	踏み残り代
		遊 び
	液 量	規定量はいつているか。
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内残り(9ノッチ)
ステアリング・ホイール		ゆるみ, ガタはないか。回転方向の遊びは 50mm 以内 異常に振れたり, とられたり, 重くないか。
各ランプ類		各々のランプは点灯するか。
各計器類		作動はよいか。
ホーン		鳴るかどうか。
ワイパー		作動は良いか。
ミラー		後方がよく確認できるか。
ライセンス・プレート		傷はない汚れ, 損か。

この中には、道路運送車両法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

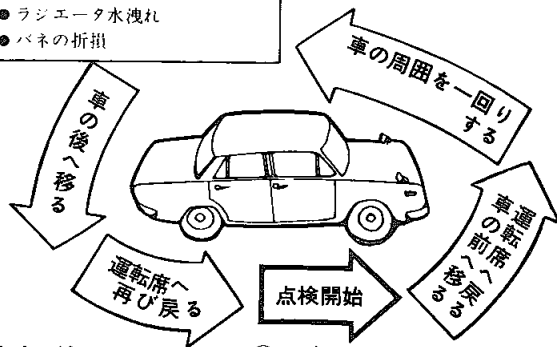
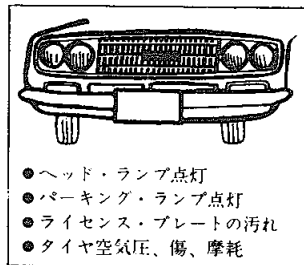
⑤車の後から



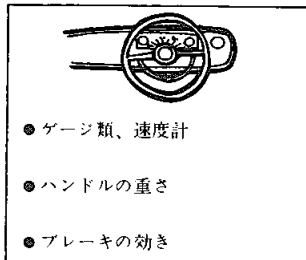
④車の下をのぞいて



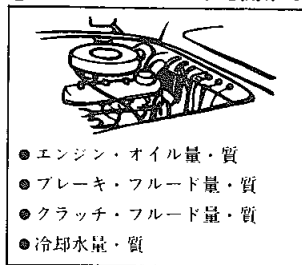
③車の前から



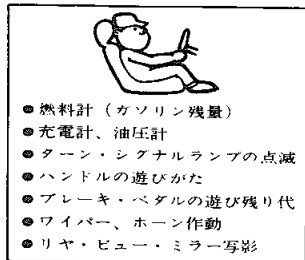
⑥徐行しながら



①まずエンジンフードを開けて



②運転席に座って



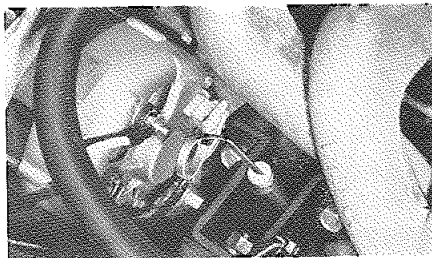
■高速走行前の点検

高速走行前は、仕業点検はもちろんですが、次の項目も追加点検してください。

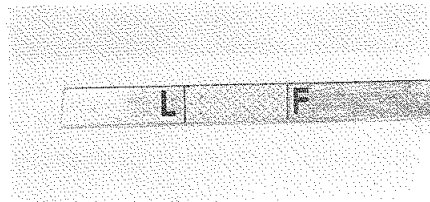
項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にゴミなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

エンジン・ルーム内の点検

1 = エンジン・オイルの点検

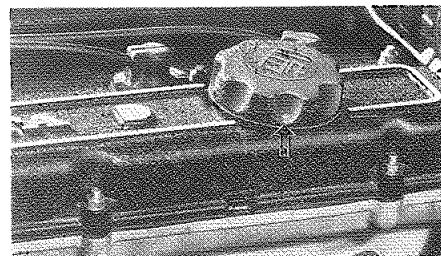


エンジン・オイル量はできるだけエンジン始動前に調べます。いったんゲージを布でふいて差し込み、オイルの線が“F”と“L”の間であればよい。



オイルの汚れや変色の著しい場合は交換してください。

■エンジン・オイルの補給



補給はオイル・ファイラー・キャップを左にまわして取りはずし、そこから行います。“F”以上入れ過ぎないようにご注意ください。

オイル・パン容量…………… 4.1ℓ

オイルは、キャッスル・モーター・オイル・スペシャルをお使いください。

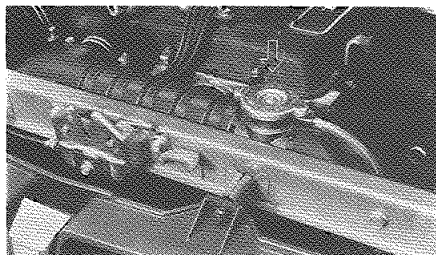
＜注意＞

1. オイルを補給したあとは、しばらく間をおいて、どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。
2. オイルは、できる限り同じ銘柄のも

無断複製禁止

のを補給してください。

2 = 冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に約 90°まわすとはずれます。

水が口元から約 20 mm 以下のときはきれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

なお、ラジエーターの水は、11元までいっぱい補給すると運転したあと水がすこし減りますが、これは故障ではありません。ある程度減ると、それ以上減りません。

不凍液……冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍るとラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャッスル不凍液の場合は次表のとおりです。

不凍液はトヨタ純正キャッスル・不凍液スペシャルをご使用ください。

凍結防止温度 °C	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
不凍液必要量 (ℓ)	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4



不凍液の注入は次の要領で行ないます。

1 ラジエーターおよびシリンダ・ブロックのドレーン・プラグを外し、冷却水を

抜きます。

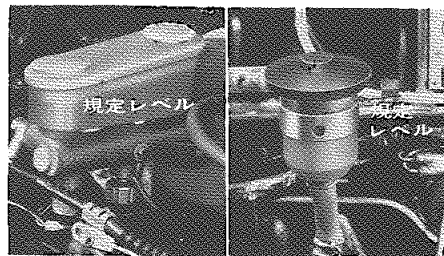
2 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します。

3 冷却水を全部抜いたのちラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックをしめつけます。

4 ラジエーターに適当量の不凍液を入れきれいな水を満たします。

暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

3 = ブレーキとクラッチのフルード



タンクの外からオイルの量を見て規定レ

ベル以下のときはそのレベルまでフルードを補給してください。

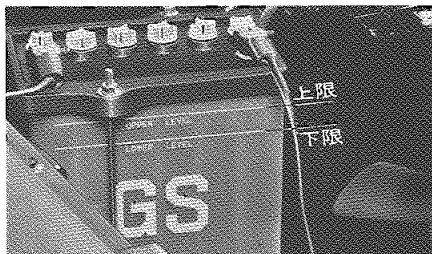
万一、フルードの減り方が著しいときはサービス工場にご連絡ください。

1 フルードは必ずトヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2400）を補給してください。銘柄の違ったフルードの補給は、絶対に避けてください。

2 補給のとき、ゴミがタンクの中に入らないように注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

3 タンクの上面には通気孔があげてありますので、目づまりのないように注意してください。

4 = バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は、使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので、液量は外から点検できます。液面が UPPER・LEVEL と LOWER・LEVEL の間にあればよく、少ないときは、UPPER・LEVEL まで蒸留水を補給してください。

《注意》

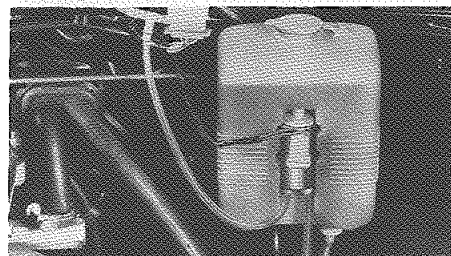
1. 液は必ず蒸留水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため、衣服や塗装を犯しますのでご注意ください。
3. バッテリーのキャップには、通気穴

があけてありますので、目づまりのないことをお確かめください。

4. ターミナル部がゆるんでいたら、締め付けてください。

5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは、温水で清掃し、グリース、またはワセリンを塗布してください。

5 = ウォッシャー液の点検



ウォッシャー液が空のままモーターを回しますと、モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておきましょう。

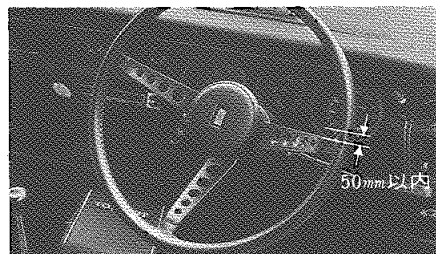
寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗浄力

無断複製禁止

のすぐれたトヨタ・ウインドゥ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

車内での点検

1 = ステアリング・ホイール



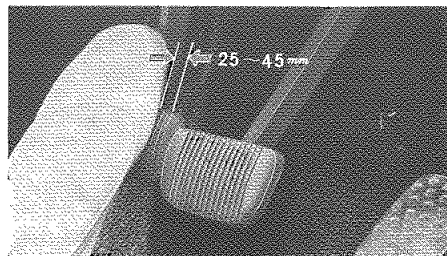
ホイールを左右に軽く動かしたときの遊びは、外周で 50 mm 以内が正規です。遊びが多いとき、何か異常の感じられたときは、早目に取扱店のサービス工場へ点検を受けてください。

2 = ブレーキ・ペダル

ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みこんだ

とき、ペダルと床との間が55 mm以上あり、又そのままでの状態で、エンジンを始動しペダルが少し、奥へ入れば異常ありません。しかしこの踏み残りしろが少ないとき、またブレーキの効きがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。運転中ブレーキを踏んだときに万一パーキング・ブレーキ・インジケーター・ランプが点灯したときは、ブレーキ関係に異常がありますので、サービス工場にご連絡ください。

3 = クラッチ・ペダル



ペダルを踏んで、はじめの 25~45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感

じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。

始めからペダルが重いとき、または、抵抗なく踏みこめるときは、サービス工場へ連絡してください。

4 = 計器類の点検

フューエル・ゲージ……エンジンキーをONにして、作動することを確認します。

チャージ・ウォーニング・ランプ……エンジン・キーをONにして、赤色のランプが点灯し、エンジンを始動し、そのランプが消灯するのを確認します。

オイル・プレッシャー・ゲージ……エンジンを始動して 1kg/cm^2 以上指示すれば正常です。

ターン・シグナル・ランプ……エンジン・キーをONにして、作動したとき、インジケータ・ランプが左右同じ速さで点滅することを確認します。

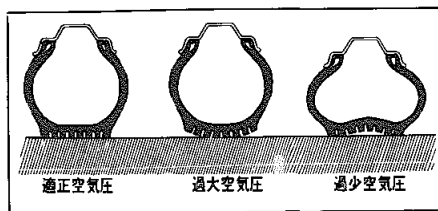
ワイパー……ワイパー，ウォッシャーが作動することを確認します。

ホーン……ホーンボタンを押して，作動の良否，音色を確認します。

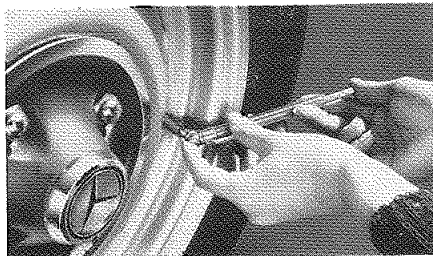
リヤ・ビュー・ミラー……運転する姿勢で後方が確認できるように調整してください。

車外での点検

1 = タイヤの点検



タイヤの空気圧を見ます。外観より判断する目安は図のとおりですが，正確な判断は困難ですから，タイヤ・プレッシャー・ゲージをご使用ください。



空気圧を計るときは，次のようにして行ないます。

タイヤの空気口のキャップをはずし，タイヤ・プレッシャー・ゲージを，空気が漏らないようにしっかりと空気口に押さえつけます。とび出してきた目盛棒は，勢いにより多目にとび出すことがありますので，指で軽く押さえゆっくりはなししてから目盛を読みます。測定後，空気の漏れがないことを確かめ，キャップをはめます。

2 = 外まわり

まず，車にのる前に車のまわりを，一ま

わりして，ボデー，レンズ，タイヤなどに異常がないか調べます。

= 下まわり

車をとめておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調べます。

もし異常があると思われるときはサービス工場で点検を受けてください。

4 = ライセンス・プレートの点検

汚れ，損傷のないことを確認します。

5 = 排気ガスの色の点検

エンジンを始動して，排気ガスの色に異常ないことを確認します。

6

=ランプ類, スイッチ類の点検

ストップ・ランプ	ブレーキ・ペダルを踏んで、点灯することを確認します
ヘッド・ランプ	ライト・コントロール・スイッチを2段目まで引いたのち、ディマラー・スイッチを作動して、点灯を確認します
ヘッド・ランプ・ホーン	レバーを手前に引いて、ヘッド・ランプのハイ・ビーム<4灯>が点灯することを確認します。
ハザード・ウォーニング・ランプ	ハザード・ウォーニング・スイッチを引き、ターン・シグナル・ランプが前後左右とも同じ早さで点滅することを確認します。
パーキング・ランプ	ハザード・ウォーニング・スイッチを右へ1段、2段、左へ1段まわすことによって、それぞれのパーキング・ランプが点灯することを確認します。
テール・ランプ スモール・ランプ ライセンス・プレート・ランプ メーター・パイロット・ランプ	ライト・コントロール・スイッチを1段引き出して、それぞれのランプが点灯することを確認します。

次の点検はエンジン・スイッチをONにして行なってください。

ターン・シグナル・ランプ	ターン・シグナル・レバーを上および下に操作して、点滅することを確認します。このとき、計器盤のインジケータ・ランプも同時に点滅することを確認します。
バック・アップ・ランプ	シフト・レバーをR（リバース）の位置にして点灯することを確認します。
計 類 器	各インジケータ・ランプが点灯するか、ゲージが作動するか確認します。エンジンを始動して、各警告灯、ゲージが作動することを確認します。

万一ヒューズ、ランプ類などを点検し、（ヒューズ、ランプ類の点検については直らない場合にはサービス工場へ連絡しセルフサービスの項をごらんください）
てください。

■徐行しながら

①=ゲージ類の点検

スピード・メータおよび各ゲージ類が正常に作動することを確認します。

②=ブレーキの効き

ブレーキをかけてみて片効きのないことを確認します。

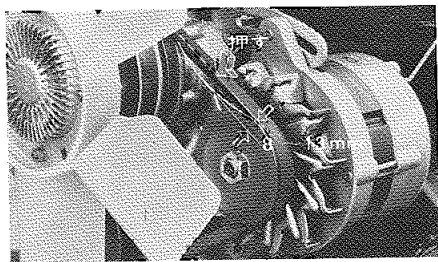
③=ハンドルの作動

走行しながらハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないことを確認します。

時々点検 するところ

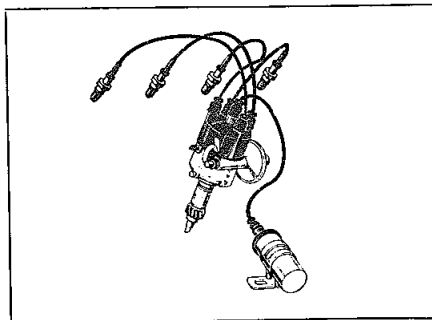
月に一度くらい、または、遠いドライブに出かける前は、次の箇所も点検すれば安心して運転することができます。

1 = ファン・ベルトの点検



キレツ、はかれなどの異常があるとき、張りが弱いときは、サービス工場で点検を受けてください。

2 = 高圧配線の点検

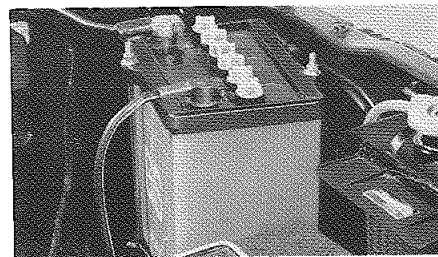


ディストリビューター、イグニッション・コイル間の配線の締付がゆるんでいないかどうか調べます。

プラグ、ディストリビューター、コイルにハイテンション・コードが完全にさし込んであるかどうか調べます。

プラグ、ディストリビューター、イグニッション・コイル付近に水、泥、油が付着しているときは、布できれいにふき取ってください。

3 = バッテリーの点検



ターミナルにゆるみがあれば、締付けます。

白い粉、ほこり等で汚れている場合には温湯で清掃してください。この時、槽の中に温湯が入らない様ご注意ください。